

様式第2号(第10条関係)

会 議 結 果 の お 知 ら せ

- 1 開催した会議の名称 第1回佐伯市総合計画産業振興社・まちづくり市民会議
- 2 開催日時 令和4年10月6日(木) 19:00～21:10
- 3 開催場所 佐伯市役所 本庁舎 6階 大会議室
- 4 出席者
委 員：梶川里沙、河野辰也、川野幹雄、工藤克史、小谷晃文、高野正太、高野隆子、暨
山恵子、波戸崎孝、藤原映治、村裕教雄、八木仁
オブザーバー：大分県南部振興局 地域創生部長 長谷部貴志
 (株)大分銀行 執行役員地域創造部長 高橋秀樹
 西日本高速道路(株)九州支社 地域共創担当部長 濱野昌史
事務局：政策企画課 課長 末永健二、総括主幹 田村英朝、清田甲生
 総合計画検討部会員
- 5 公開、非公開の別 公開
- 6 傍聴人数 なし
- 7 議題及び結果
 (1) 議題 第2次佐伯市総合計画後期基本計画の策定について
 (2) 結果 事前配布資料により、事務局が資料説明をした後、質疑応答を行った。
- 8 会議の資料名一覧
 (1) 第2次佐伯市総合計画について
 (2) 後期基本計画(案)
 (3) 前期基本計画の検証結果
 (4) 市民アンケート調査結果
- 9 問い合わせ先
 担当課 総合政策部 政策企画課 政策企画係
 電話番号22-4104 内線562

令和4年度 第1回 佐伯市総合計画産業振興・まちづくり市民会議結果について

日 時 令和4年10月6日(木) 19:00~21:10
場 所 本庁舎6階 大会議室

出席者 【委員】

梶川里沙、河野辰也、川野幹雄、工藤克史、小谷晃文、高野正太、高野隆子、
豎山恵子、波戸崎孝、藤原映治、村裕教雄、八木仁

【オブザーバー】

大分県南部振興局 地域創生部長 長谷部貴志
㈱大分銀行 執行役員地域創造部長 高橋秀樹
西日本高速道路㈱九州支社 地域共創担当部長 濱野昌志

【事務局】

政策企画課 末永課長、田村総括主幹、清田
総合計画本部会議検討部会員

欠 席 長尾一生、永田華香

傍聴者 なし

1 開会挨拶

政策企画課末永課長が挨拶を述べた。

2 委嘱状交付

各席への配付をもって、委嘱状の交付とした。

3 市民会議委員紹介

各委員が自己紹介を行った。

4 会長選出

会長に川野委員が選出された。

5 会長挨拶

川野会長が新任挨拶を行った。

6 議事

桑門会長が議長となり、議事を進行した。

(1) 第2次佐伯市総合計画について

(2) 佐伯市総合計画市民会議について

(3) 前期基本計画の検証結果について

(4) 市民アンケート調査結果について

事務局（清田）が（1）から（4）まで、資料に沿って説明し、質疑応答を行った。

《主な質疑応答》

特になし

(5) 第2次佐伯市総合計画後期基本計画について

庁内で検討した後期基本計画案について説明し、次回までに読み込んで意見を出していただくこととした。

《主な質疑応答》

政策5 地域資源をいかした産業と観光の創生

施策1 農業の振興

【高野隆子委員】

WC S用稲について、佐伯市では地域でどれくらいの面積を作っているのか。

【農政課 下川課長】

佐伯市全域で栽培している。面積については、令和4年度（見込み）91ヘクタール、令和3年度（実績）90ヘクタールである。

【豎山委員】

有機農業の推進を考えると土づくりが一番肝心になってくると思う。主な取組に含まれているのかわからないが堆肥や土を作る支援はどういった案があるか。

【農政課 下川課長】

有機農業のもとになるのは土づくりであることは十分認識しているので、追記したい。

施策2 林業の振興

【川野会長】

後期基本計画にも「カーボンニュートラル」という文言が入っており、この先にあるのが「グリーントランスフォーメーション」というカーボンニュートラルに関連した取組になってくる。カーボンニュートラルは、企業がどれだけ二酸化炭素を出さないようにするかという取組である。それができる幅を考えると、いかに森林を残すかという取組になってくる。国は、今後10年間でカーボンニュートラル、グリーントランスフォーメーション関連に150兆円の予算をつける。国策の流れをうまく使い、佐伯市の森林を活用できないか。

【林業課 佐保課長】

本市は森林面積が87%と非常に高い状況である。行政としては、主伐・再造林を適切に行うことが、生育過程において二酸化炭素を吸収する取組になると考えている。文言で直接的には出ていないが、地域資源を生かした産業と観光の創生に向け、今後も取り

組む。

【川野会長】

企業がどう取り組むのかということがカーボンニュートラルの起点となる。例えば企業版ふるさと納税として、佐伯市の再生林に企業からお金を出すことで、林業従事者が働きやすくなるような資金の循環も取り組んでいただきたい。

【林業課 佐保課長】

この計画の中にも反映を検討したい。

施策3 水産業の振興

【主な意見なし】

施策4 ブランド化・流通の促進

【主な意見なし】

施策5 商工業の振興

【波戸崎委員】

佐伯市には、バイオマス関連産業は何社ぐらいあるのか。

【商工振興課 松下総括】

バイオマス産業としては木材チップ工場。まだ数社程度だが、佐伯市は森林面積が広いので、チップ工場などの誘致にしっかり取り組んでいきたい。

【波戸崎委員】

その数社は実際にバイオマス産業で実績を上げている状況なのか。

【商工振興課 松下総括】

近隣のバイオマス発電所や大分市内の関連の発電所などに木材チップを出している。

【川野会長】

人材の育成と確保について、一社に就職して給料を貰う生活のスタイルが通常だと思うが、一方でコロナ禍もあり、主業があつての副業ではなく、数社で仕事をする副業という取組もある。こうした副業人材の育成の取組は検討しないのか。

【商工振興課 河野総括】

副業人材の育成については、令和3年度から副業人材マッチング事業として、市内の企業が都市部にいる知識・技術を持った方の副業として、販路拡大などアドバイスももらうといった事業を実施している。

【川野会長】

都内の大企業も副業してもよいという流れになってきている。佐伯市のワーケーション先で副業の企業に行くとなれば、この課題が二つ解決する。その中で、女性や働ける方を巻き込むような複合的な取組になれば、市として効率的かつ、成果も上がりやすいと思う。

施設6 観光産業の振興

【高野正太委員】

サイクルリストの誘客とあるが、サイクルレーン等の設置が余り見られない気がする

が、道路整備の状況はどうか。

【観光課 久保田総括】

環境整備については、今年度、補正予算を計上して取り組むこととしており、来年度には目に見える形で整ってくると思う。

【小谷委員】

個別の施策単位の取組についての説明はあったが、全体的な、例えば観光と食において、共有して取り組む中で組織の横断的なプロジェクトや活動があると面白い。

【観光課 久保田総括】

食と観光の取組では、10月16日から「ななつ星 in 九州」が佐伯に入ってくる。観光列車に対して、佐伯産品の食を提供することが一つの目玉になっている。食と観光は非常に愛称がよく、よい施策になっている。

【コミュニティ創生課 安藤課長】

移住定住についての計画策定に当たり、佐伯市の人口が減少していること、それに対応する必要があるということを庁内で連携し、共通認識を持ち、施策構築の際に、移住定住を意識した取組もできればと考えている。

地域コミュニティの構築についても、庁内全ての課に関係するので、連携しながら施策を進めている。

【小谷委員】

そうした横のつながりを持って取り組んでいることが見えたほうが新しい連携の案も出ると思う。

政策6 人が交流し、活力あふれるまちの創生

施策1 人権を尊重するまちづくり

【主な意見なし】

施策2 男女共同参画のまちづくり

【主な意見なし】

施策3 市民協働のまちづくり

【波戸崎委員】

さいき城山桜ホールに機能移転が完了し、今後は利活用を進めるとあるが、仲町商店街には組合や協議会があるか。

【商工振興課 河野総括】

商店街連合会、仲町商店街の組合がある。全体的なものとして中部開発協議会もあるが、実態としては機能していない状況である。

【波戸崎委員】

協議会と桜ホールが協働した取組は今までであったのか。それともこれから取り組もうと考えているのか。

【地域振興課 成松課長】

現状では、桜ホールと仲町商店街の連携はこれといったものがない。大手前商店街周

辺の方と桜ホールとのイベントの関連性は非常に強いが、仲町商店街は組織が弱体化しており、連携が取れていない状況である。しかし、地域振興課としても、仲町商店街ややうまいもん通りと連携していかなければならないと考えている。

施策4 「食」のまちづくり

【主な意見なし】

施策5 移住定住の促進

【波戸崎委員】

前期計画で移住者への居住支援、空き家バンク事業の実施とあり、後期計画で、移住者のニーズを捉えた居住支援などがあるが、前期に実際その移住者のニーズにマッチした居住支援として、具体的な事例があれば聞かせてほしい。

【コミュニティ創生課 安藤課長】

前期基本計画の中で住環境では、空き家バンクが主な取組である。空き家バンクは、年平均 20 数件の売買や賃貸があり、常時 25 件程度の物件を掲載している。

ニーズに応えた部分は、移住者が主に求める住環境について、空き家バンクや未定だが空き地バンクといった建物だけでなく敷地についても研究している。

【川野委員】

移住者の定住率について、例えば、1年、3年、5年スパンで追っているか。

【コミュニティ創生課 安藤課長】

きちんとした定住率は出せていないが、補助金等の施策を使って転入してきた方の定住率が高いことは把握している。

【川野委員】

人口維持施策は、どこの市も一緒に日本の人口減少が進む中、移住は限度があると思う。後期基本計画5年間のKPIはどのような数値を考えているのか。

【コミュニティ創生課 安藤課長】

移住者の目標値については、前期は施策による移住者数が 200 人としていたが、今年度の見込みは 100 人程度と想定している。後期の目標値については、これから検討する。

東京のふるさと回帰センター等に話を聴くと、都市部からの地方への移住ニーズは高い。そのニーズ把握し移住者を増やしていきたい。

【川野委員】

大分県の地域おこし協力隊の定住サポート事業も携わっており、研修等で地方移住の大学教授は、「5000 人の疲弊した村」と「2000 人の幸福度の高い村」のどちらがよいか、人数が減ることが駄目という考え方を変えなければ、そもそも人口が減る中で無理ではないかと言っている。

佐伯市に住みながら大分市や延岡市で働くといった移住の仕方もある。地域の方といかに交わって移住したのかという数値を追うとよいのでは。別の地域では移住者だけのコミュニティがあり、全然地域の人と交わっていない。また、もともと住んでいる方と軋轢が生じている。これは、市にとって必要な移住だったのかという課題もある。

もともと住んでいる方が幸せになり、共感した方が移住してくるプロセスを大事してほしい。

【コミュニティ創生課 安藤課長】

佐伯に住んでいる方が住みにくいところに、市外から移住する訳がない。住んでる方の幸福度が高く、子育てしやすい、そう実感できるまちが、自然と人来るのではないかという意見もあった。後期基本計画においても、移住者だけでなく住んでいる方の幸福度が上がる施策を展開したい。

施策6 国際化の推進

【主な意見なし】

施策7 市民サービスの充実

【主な意見なし】

施策8 新たな地域コミュニティの構築

【主な意見なし】

(6) 今後のスケジュールについて

スケジュールについて説明した。

《主な質疑応答》

特になし

(7) 次回の市民会議の開催日について

調整の結果、10月27日（木）19時から開催することに決定した。

(8) その他

意見提出票について説明した。